

第 17 回知的財産翻訳検定<第 8 回英文和訳>

1 級 機械工学

標準解答

問 1

(下線は、参考用)

【請求項 1】

配管システム、たとえばセントラルヒーティングシステムからの液体を排出するためのドレン開閉弁であって、

使用時に配管システムのパイプに接続されるように構成されている流入端と、排水ホースへの接続に適している流出部との間に延びている内孔を有するバルブ本体と、

前記内孔において前記流入端と前記出口部の間に配置され、前記ドレン開閉弁の開閉を可能とする回転可能な開閉弁と、

前記内孔内の複数の弾性シールと、

環状の保持部材と、

を備え、

前記回転可能な開閉弁は、前記複数の弾性シールの間に保持され、前記環状の保持部材は、前記回転可能な開閉弁を所定の位置に保持するドレン開閉弁。

【請求項 2】

請求項 1 記載のドレン開閉弁であって、

前記環状の保持部材は、前記回転可能な開閉弁及び前記複数の弾性シールを格納する前記内孔よりも狭い内孔を有するドレン開閉弁。

2. 問題点の指摘と対応措置

(1) the rotatable valve

①先行詞がありません。rotatable shut-off valve の誤記と思われます。

②パリルートなので、修正して訳すとともにコメントしました。

(2) for example a central heating system (加点対象)

不明確な記載と思われますので、ご報告致します。

弁理士の対応例 (参考)

(1) the rotatable valve (rotatable shut-off valve)

誤記か否かを検討し、必要に応じて修正（リバイズ）した英文を現地に送って確認します。

(2) for example a central heating system

状況に応じて、現地確認の上で削除、サブクレーム化、あるいはリバイズ無しの対応をとります。

①「削除」は、central heating system がサブクレーム化しても特許性に寄与しない場合の対応です。

②「サブクレーム化」は、たとえば「前記配管システムは、セントラルヒーティングシステムである」との構成でサブクレームを作成します。

③「リバイズ無し」は、一発特許査定を回避するために行います。米国特許商標庁や欧州特許庁では、特許査定後にも補正の機会が与えられます。したがって、審査中の数年間の間に権利取得の方針が変わった場合、たとえばサブクレームの追加や権利範囲の変更が必要となったとき、欧州や米国では、特許査定後に審査官の合意の上で補正が可能です。

しかしながら、日本では、特許査定後に補正の機会が与えられません。したがって、外国のクライアントの指示によっては、一発特許査定を回避するために敢えて「たとえば」や「好ましくは」といった記載不備を残さざるを得ない場合があります。

問 2

0002

熟練した石留め職人の高価な労働力に対する宝飾品製造業者の依存度を減らす必要性は、長らく認識されてきた。その試みとして、失蠟法を利用した次のような宝飾品製造方法が知られている。

・まず、原型となる蠟を流し固めるためのゴム型を、宝石も収容できるように形成する。

- ・このゴム型に宝石を位置決めする。
- ・ゴム型を閉じて蠟を注入する。
- ・宝石が留った状態の蠟の原型をゴム型から取り出す。
- ・原型を包み込むように、石工等の鋳型を形成する。
- ・失蠟法により蠟を貴金属で置換する。

・ 鋳造品を鋳型から取り出すと、既に石留めされた宝飾品が得られる。
こうして、金属の鋳造品に石留めをする工程が省ける。

0003

このように、宝飾品を完成させる熟練石留め職人の必要性を排除するという目的を達成するべく、試行がなされてきた。しかし従来の方法は、宝石を蠟の原型に留める工程に関して、目的を達成するに不十分であった。

0004

具体的には、開いたゴム型に宝石を位置決めし、蠟を注入する前に宝石がずれないように細心の注意を払って型を閉じる工程は、比較的時間を要するだけではなく、信頼性が低いことも判明している。このような複雑化要因のため、製造過程のこの工程における効率が一般には許容できないほど低いものになってしまっている。

問 3

0018

ギア機構 52 は、油圧機械式変速機 54、機械式変速機 56、および差動装置 72 を含む。機械式変速機 56 は低圧スプール 36 と操作可能に連結されており、エンジン 10 から回転速度の入力を受ける。差動装置 72 は機械式変速機 56 と発電機 50 との間に操作可能に介在している。

0019

機械式変速機 56 は、低圧スプール 36 の回転速度を反映した回転入力を傘車 74 から受ける。傘車 74 は、回転を第 1 の差動歯車機構 68 に伝えるキャリア軸 76 と直接連結する。この第 1 の差動歯車機構 68 は、2 速遊星ギアとして構成されている。

0020

機械式変速機 56 は、少なくとも第 1 の位置と第 2 の位置に選択的に入る。第 1 速を示す第 1 の位置においては、機械式変速機 56 は入力されたキャリア軸 76 の回転速度を、低圧スプール 36 の回転速度の 2 倍で差動歯車機構 68 を介して差動キャリア軸 70 に出力するように作動する。反面、第 2 速を示す第 2 の位置においては、機械式変速機 56 は入力されたキャリア軸 76 の回転速度を、低圧スプール 36 と同回転速度で差動歯車機構 68 を介して差動キャリア軸 70 に出力するように作動する。